



KOHASU-KUN

こはすくん

高知大学 病院広報

66号 発行日/平成26(2014)年12月20日

お仕事紹介 保育士

冬場に多い脳血管障害(脳卒中)

平成26年度 消防学校生実地研修について

医学部総合防災訓練を行いました

院内散歩 ●病院茶会を開催しました
●ジャズコンサートを開催しました

●4コマ漫画「こはすくん」第27回

お仕事紹介

保育士



看護部
(二階東病棟)
山本 美佳
やまもと みか

現 在私は、医学部附属病院の小児病棟で、唯一の「病棟保育士」として働いています。

私 は、保育園児だった時の担任の先生に憧れて保育士を志しました。志望していた短期大学の幼児保育学科に入学し、子どもの興味を惹き付ける為の演劇のような授業や、大好きなピアノの授業など、苦手な事から得意な事まで、「保育士になる」という強い思いで頑張りました。

卒 業して憧れの保育士になった私は、ある保育所で働き始めました。保育士になれたことで達成感を得ていましたが、同時に新たな夢が出来ました。それは、「様々な状況の子ども達に対応できる保育士になりたい」というものです。そして縁あって、この病院で保育士として働き始め、三年目になります。

働 き始めてみると、病気の種類もほとんど知らず、体調が悪い時にどうしてあげたら楽になるのかということも分かりませんでした。また保育所とは違い、接する子どもは皆、年齢や性別、発達や病状など全て違います。その為ひとりひとりに合った保育を提供していかなければなりません。まだまだ未熟で、提供できるほどの保育知識を持っていない自分が病棟保育士として現場にいても大丈夫なのか、本当に不安で自信が全くありませんでした。

経 験を重ねていくうちに、気づいた事があります。病気に立ち向かう子どもの笑顔は特別なものだということです。子ども達は入院生活を通じて、様々な事を我慢することになります。家族と離れ離れ

になり、治療の一環として好きな食べ物も我慢をしなければならない、痛くて怖い注射や処置、苦手な薬など、当たり前で過ごしていた日々から、たくさんの制限を強いられます。その中で私は唯一の遊び相手として接し、子ども達の個性を伸ばす役割を担っています。緊張する毎日から、ふと遊びの時に出てくる表情や笑い声は、子ども達の本来あるべき姿だと思っています。また、入院が長くなってくると、入院生活に対するストレスや不安などが出てきます。子ども

だけに限らず、その家族も同じです。そういった中で、信頼を築き、安心を感じてもらえる存在になれるよう、子ども達とその家族に寄り添い、心のケアも心がけています。

実 際、保育活動などの業務自体は、ほぼ一人で行っていきませんが、子ども達が単調な入院生活の中でも季節を感じ、楽しい時間を過ごしてほしいとの思い

を込めて、看護師と一緒に季節に合わせた行事を企画しています。

そ れは、医師や看護師など、日頃ゆっくり関わる事の出来ない方々と子ども達が一緒に楽しむ大切なイベントです。この事によって、子ども達が病棟スタッフに対して安心感を抱いていく様子が伺えます。日常の業務を行いながら準備をしていくので忙しくて大変ですが、子ども達が本当に楽しんでいる様子を見ていると、もっと頑張ろうと思えます。



え れからも、医師や看護師、また他職種の方とも連携して、子どもの入院生活を支援し、QOL(生活の質)の向上に努めていきたいと思えます。





冬場に多い脳血管障害(脳卒中)

老年病・循環器・神経内科学講座 教授 古谷 博和

脳 血管障害(脳卒中)は現在日本人の死因の4番目となっており、死亡率が下がっているように見えますが、これは救命処置が進歩したためであって、命は助かって後遺症が残り、寝たきりを余儀なくされる事が多い危険な病気です。

三つに分類されます。(下図をご参照ください)

脳梗塞は脳の血管が狭くなったり、血栓(小さな血のかたまり)が詰まることで、脳細胞へ血液が送られなくなり、脳細胞が死んでしまう病気です。

脳出血は脳の血管が破れて出血し、血のかたまりが脳を圧迫して機能障害を起こす病気です。

くも膜下出血は脳の外側を包んでいるくも膜の下に出血が起こり、

脳を圧迫して機能障害を起こす病気で、血管に出来た小さな瘤(脳動脈瘤)が破裂して発症することが多く、比較的若年層の方が命を落とす頻度の高い、恐い病気です。

これら脳血管障害のうち、一般的に脳梗塞は夏場に多く、脳出血とくも膜下出血は冬場に多いと言われています。これは脳梗塞が脱水などで血液の粘度が高くなることに関係し、脳出血とくも膜下出血が高血圧で起こりやすくなるからだと言われています。しかし詳細に統計をとってみますと決して冬場に脳梗塞が少ないわけではありません。冬場に脳出血や、くも膜下出血の頻度がやや高くなるくらいに考えていた方が良さそうです。

脳 血管障害のおもな原因は、高血圧、肥満、脂質異常症(高脂血症、高コレステロール血症)、動脈

硬化、糖尿病といった生活習慣病で、これらの病気は脳血管を劣化させて破れやすい状態にしたうえに、血栓を作って血管を詰まりやすくします。そのために、寒さから血圧が上がりやすい冬には、高血圧で血管に強い圧力がかかるので、脳出血やくも膜下出血が多いとされているのです。

出来ますし、くも膜下出血の原因となる脳動脈瘤をあらかじめ見つけることも出来ます。そのような動脈瘤が見つかって、破裂の危険性が高い場合は、あらかじめ予防のための血管内治療を行う事も可能です。

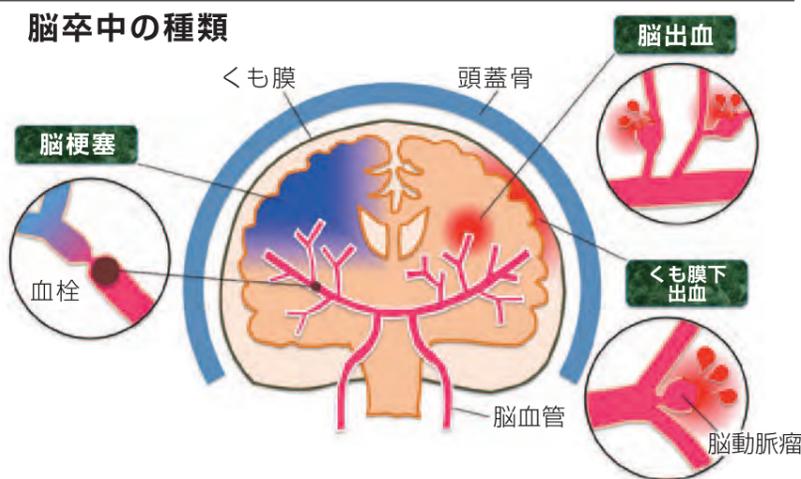
破裂してしまった動脈瘤の手術を行うより、破裂前に鼠径部の血管などから細い管を使って動脈瘤を詰める治療を行う方が遙かに危険性は低いのですから、ご心配な方は脳ドックなどの検査をおすすめします。

から、朝夕、測定した値をノートにつけて主治医の先生にお見せして、治療の方針を決めていただく事が望ましいと思います。また急な気温の変動は急激な血圧の変化を起こし、脳血管障害や心臓病の危険を高めますので、寒い時期には力んで血圧が上がることの多いトイレも含めて、家の中の部屋全部を暖かくすることも望ましいでしょう。

以上述べてきましたように、成人病の有無を調べてその治療をして、現在の脳血管の状態を把握し、血圧をコントロールすることが、冬場に多い脳血管障害を少しでも予防するために大切な事だと言えます。

脳 血管障害は大きく分けると、脳梗塞、脳出血、くも膜下出血の

脳卒中の種類



平成26年度 消防学校生実地研修について

本年度も、高知県消防学校の実地研修が附属病院にて行われました。

高知県消防学校では、救急隊員として活動できる消防職員を養成するために「救急科」を開講しており、県内の各消防本部で新たに採用された職員を対象にして、救急業務に関する専門的な知識

や技術を習得させています。この「救急科」の課程を修了しますと、国の定めた一定の応急処置ができる資格が授与されます。

「救急科」では、毎年10月から12月にかけて救急に関する講義・実習が実施されており、その中には本学医学部附属病院においての半日間の実地研修が組み込まれています。今回は、11月13日(木)に高知県消防学校の学生29名と引率教官1名が来院され、三つのグループに分かれて、手術部、検査部及び放射線部を見学し、各部署の担当職員から業務内容や医療機器などの説明を受けました。学生さんは、説明を熱心にメモし、あるいは担当職員に積極的に質問を行っていました。

後日、消防学校から救急科の全課程を終了したとの連絡がありました。研修に来られた学生さんが、今後救急隊員として高知県内のあらゆる場所で活躍されることを期待しています。



▲各部署で説明を受ける消防学校生



医学部総合防災訓練を行いました

11月14日(金)、医学部総合防災訓練を実施しました。この訓練は職種を問わず医学部で働く全ての職員を参加対象として毎年行っています。当日は午後の外来診療を原則休診とさせていただいており、患者さんをはじめ、多くの方々にご迷惑・ご不便をおかけしましたが、今回も実り多い訓練をすることができました。ご協力ありがとうございました。

今回の訓練は、平日の昼間の地震発生を想定し、災害時の体制構築からトリアージ(*1)実施までを組み込んだシナリオにより行いました。実際の災害時により近い形とするため、訓練内容詳細の事前通知は極力行わず、参加者は当日構内放送で集合した後その場で役割を決め、行動表やアクションカード(*2)に従って訓練を進めていくというブラインド方式を採用しました。この方式を採用して今回で3回目でしたが、当日現場で受けた指示に従って行動することへのとまどいがあり、訓練終了直後に開催された全体反省会では、自分が担当すべき役割について事前に勉強する機会が必要との意見もありました。

また、院内訓練とは別に医学部学生の避難訓練も実施され、キャンパス全体で訓練に取り組んだ一日となりました。「災害に強い病院」であるため、これからも実施方法を工夫しながら訓練を重ねていきますので、今後とも皆様のご理解・ご協力をお願いいたします。

(*1) トリアージ…災害時・非常時に、病気やケガの方それぞれの緊急度や重症度を判定して治療や後方搬送の優先順位を決めること。
(*2) 行動表、アクションカード…訓練参加者がとるべき行動を記載したもので、各エリア毎に用意されている。行動表は壁等に掲示してエリアの全員が参照するものであり、アクションカードは全参加者がそれぞれ首から下げられる小型のものとなっている。



▲医学部の被害情報を収集・整理している災害対策本部



院内散歩 INNAI SANPO

病院茶会を開催しました

10月10日(金)に、附属病院外来玄関ホールで病院茶会を開催しました。この茶会は、来院された患者さんに抹茶と菓子で秋の風情を楽しんでいただくこと、医学部裏千家茶道部の学生が中心となって企画したもので、今年で8回目です。野点傘などで茶会席を演出し、茶器の説明や、お茶の点て方の解説などを交えながら、患者さんやそのご家族を接待しました。

参加された患者さんからは、「久しぶりにお茶を飲みました。まさか病院でお茶が飲めるとは思っていなかったのですが、良かったです」「お茶もお菓子も美味しかったです。ありがとうございました」と好評でした。茶道部の学生は「今年もたくさんの方に来ていただけて、嬉しかったです」と感想を話していました。



ジャズコンサートを開催しました



11月15日(土)、附属病院外来玄関ホールで「ジャズコンサート」を開催しました。

このコンサートは、主に入院中の患者さんを対象としてほぼ毎年行われているもので、今年はニューヨーク在住のジャズピアニスト・クニ三上さん率いるクニ三上トリオ(ピアノ=クニ三上さん ベース=池田聡さん ドラムス=橋本学さん)が出演しました。

楠瀬伴子看護部長の開演の挨拶の後、クニ三上トリオのメンバーがステージに登場すると、軽快なジャズメロディーが会場に流れ出しました。有名なジャズソングだけではなく、「エリーゼのために」や、今年公開された映画『アナと雪の女王』から、「Let it go ~ありのままに~」などが演奏されました。その他にも、幅広い年齢の方が親しみやすい曲をアレンジしたメドレーなどが演奏され、会場は終始明るい雰囲気になっていました。

クニ三上さんの軽快なトークを交えたステージは約1時間続き、集まった患者さんやそのご家族は、思い思いに足でリズムをとったり、肩を揺らしたりしてコンサートを楽しんでいました。

アンケートでは、「心も体も元気になった気がします」「今日は楽しい時間となり、ありがとうございました。このような機会は気分も前向きになり、患者にとっては、有意義な時間となりました。今後も色々、続けてほしいと思います」といった意見が数多く寄せられました。



KOHASU-KUN
こはすくん
66 高知大学 病院広報
号 平成26(2014)年12月20日発行

ご意見・ご感想は
こちらまで
どしどし
お寄せください。



[郵送先]

〒783-8505 南国市岡豊町小蓮
高知大学医学部・病院事務部
総務企画課調査・広報係
TEL.088-880-2723 (直通)

■ ホームページ

<http://www.kochi-ms.ac.jp>

■ メールアドレス

kms-info@kochi-u.ac.jp

高知大学医学部附属病院
KOCHI MEDICAL SCHOOL HOSPITAL
〒783-8505
高知県南国市岡豊町小蓮185-1
TEL.088-866-5811 (代表)
TEL.088-866-5815 (時間外)